

文化財石垣保存技術協議会会報

令和5年（2023） 第29号 —令和5年度事業報告—

◇令和5年度総会が開催されました

日 時 令和5年7月17日（月・祝）

場 所 日本城郭研究センター大会議室

来 賓 小野友記子 文化庁文化資源活用課
文化財調査官

柏原正民 兵庫県教育委員会事務局 文化財課長

平田貴洋 姫路市教育次長

砂山雅昭 姫路市教育委員会 生涯学習部長

記念講演 パネルディスカッション

『石屋に縁して』

コーディネーター：藤本昇(技能会員)

パネラー：栗田純徳、諏訪匡、藤田精、
水野賀道、小川龍也、小野貴義、河本浩
次、和田宇司

主な議事 令和4年度事業報告・決算報告、令和5
年度事業計画・予算案



総会の様子



パネルディスカッションの様子

坂井 清春(技術・研究会員)

今回の指導者養成研修における記念講演「石屋に縁して」では、一般的な講義では知り得ない具体的な内容に触れることができ、非常に有意義な内容であった。なかでも、「石屋にテキスト作成は難しい」と言われた内容は、単純にボリュームが多くて厳しいというだけでなく、状況に応じて対応が全く異なっていく様子を伝えられたものと思う。石垣石材を据える際のあわせの基準をどうするのか、基準となる丁張に対して、実際はどのように調整しながら積んでいくのか、仕上げをどこまでどのようにするのか。積む対象の石垣がどのような石垣かにより千差万別となる。あたりの取り方や丁張との合わせ方が、厳密に見ると個々で微妙に異なっている点が非常に興味深かった。今後の現地研修等で、その違いを確認してみたいと思う。

文化財石垣を扱う難しさを認識しつつ、人材不足や会社としての立場を踏まえ、どこまで守っていくのかについて日々苦慮されている状況を、生の声として聴くことができた。伝統技術の保存・継承は一朝一夕では解決しない課題ではあるものの、「伝統は永遠の流行」であるとおっしゃられた諏訪さんの言葉から考えてみると、その時々で出来ることを真剣に取り組んでいくしかないのであろうと、改めて思い知らされた。その他にも、各パネラーが普段感じている点や考えている事柄を、自分の言葉で伝えていただいたおかげで、非常にわかりやすく、より具体的に知ることができた。こうした生の声を存分に引き出されたコーディネーターの藤本さんの統括力とそのテクニックについても、大変勉強になる内容であった。

今回受講した内容は、現在私が担当している石垣修理事業を進める上で不可欠な視点を再整理することができた。伝統技術とは何かというマクロから、石材のあわせ方等のミクロまで、様々な視点を忘れずに今後の職務に活かしていきたいと思う。

技能者養成研修

日 時 令和5年7月15日（土）～16日（日）
場 所 姫路市日本城郭研究センター2階 中会議室
研修生 技能会員、技術・研究会員、一般会員、賛助
会員 36名

研修内容 文化財石垣に関連する講義、討論等

日	講習内容	講 師
7/15 (土)	文化財保護制度と石垣 修理の現状	小野 友記子 (文化庁文化資源活用課)
	「石垣整備のてびき」 の読み方	楠 寛輝 (松山市教育委員会、技術・研 究会員)
	安定した石垣の構築と 伝統技能	西形 達明 (関西地盤環境研究センター、 評議員)
7/16 (日)	石垣修理における「歴 史の証拠」の保存	北野 博司 (東北芸術工科大学教授、評議 会員)
	史跡盛岡城跡石垣修復 について	佐々木 亮二 (盛岡市役所、技術・研究会員)
	石垣修理における「設 計監理」の実務 - 特別 史跡五稜郭跡石垣保存 修理の実績をもとに -	田口 直人 (㈱空間文化開発機構、技術・ 研究会員)
	石垣修理における「施 工」の実務	小野 貴義 (㈱小野石材店、技能会員)



都築 佑紀(技術・研究会員)

今回、入会してから初めて参加させていただきました。先人たちがこれまで何百年と残してきた石垣を、現代の職人たちがさらに何百年と後世に残すべく工夫等を行っている聞いて心打たれました。今現代では、ITの進歩により機械上で危険度がわかるようになってきていますし、日常的な観察と事前測量により状況把握ができていますので、今後の安定した石垣を構築できていくのではないかと考えております。

また、文化財の石垣を保存していくには、多額の予算が必要になってきておりますが、年々史跡整備の補助額が要望数に応じて減ってきており、今後早急に修復しないといけな箇所が、できなくなってくる可能性があります。それでは文化財を守っていけなくなってしまうので、寄付金を募り修復することも検討していかなければならないと考えております。

私自身、まだまだ経験が浅いので、今後もこのような研修に参加していきたいと考えております。

唐澤 友久(技能会員)

名古屋研修に続いて、姫路研修に参加することができました。技能会員として入会できて大変うれしく思います。今回の研修を受講して、経験を有する技能者、技術者、研究者等が石垣に対して探求心を持って取り組んでいることを改めて感じました。文化財の石垣となればさらに特別です。私は石垣石積の経験が少なく技能もまだまだ未熟です。普段は石積以外の作業がほとんどで年に一回あるかないかです。地元史跡の調査が進み整備が行われることになりました。縁あって研修に参加することができて勉強することができるようになりました。まだ現場での実技研修に参加できていないので参加してみたいです。地元から遠方での研修が多いので大変ですが、石垣、文化財、ものづくりの知識技能を習得してさらにいいものづくりができる技能者になりたいと思います。地元での史跡整備事業に携わり、文化財の保存に役立ちたいと思います。

実技専門研修1・実地研修2

日 時 令和5年11月23日(木・祝)～11月26日(日)

場 所 赤穂市 天和丁場内

【実技専門研修1】

研修生 技能会員11名(講師5名)

内 容 石垣解体、積み直し・復旧、石材加工等に関する基礎実習



【実地研修1】

研修生 技術・研究会員3名(講師1名)

内 容 石材カルテの作成実習、石垣解体、積み直し・復旧時の施工管理実習



河田 浩彦(技能会員)

今回赤穂研修に参加できてとても参考になりました。

まずは実践的な墨打ち、石の番号付けレッテル貼り、ひげ付け、背書き、今まで自分が行っていることと違いがあり、大変参考になりました。また石垣解体にいたっては、解体時にテコの使い方、玉掛などは今まで自分が行っていることとほとんど同じだった。

新石づくりの型取りはいろいろな取り方があると思いました。自分が主に会社で使用するのは、盆栽用の銅線を使って型取りを行っています。今回の研修を活かして色々な方法を試して早くて正確できれいな形をつくり、もとの石材に忠実に再現できるようにしていきたいです。

積みにおいては、元の位置に戻すために、縦墨と横墨を合わせひげ墨に合わせたのに、微妙にズレが出て、合わせていくのに少し手間どった。また元の石垣の石どうしの当たりが悪いのには苦勞した。新石加工石割はすごく楽しかった。赤穂の石の硬さに少し驚いた。まめ矢で石材を割るときも、矢穴の間隔や深さなどいろいろ講師の人たちに教わり大変参考になりました。石の種類や産地によって矢の大きさや深さが違うというのが良く分かった。今まで自分が使用しているまめ矢やピッチングの矢と違いが多少あった。赤穂の石を割ったとき、割肌がものすごくきれいな面になりとても気持ち良かったです。

これからは、今回の研修で学んだことを会社の同僚や後輩などに伝えて、今後の仕事に役立てていきたいと思います。また機会があればいろんな研修に参加したい。

松田 空(技能会員)

自分は研修に参加するのは2回目ではほとんど何も知らない状態での参加でした。今までは、熊本城の崩落石の撤去などの作業はしましたが、実際に積んである石を解体して積み直すのは初めてで、レーザーを使いメッシュを打ったりするのも初めてでした。自分は今回習ったこの方法しか知りませんが、違うやり方もあるし、レーザーを使うのは自分で考えたことだったので自分でも考えてみようと思います。他にも石垣の修復作業は元に戻すのが優先で、その際最初に写真を撮るときに自分たちで写真を撮って修復するとき、こういう写真があればよかったなと思いました。実際に間詰石がどういう風にはまっていたのかが分からなくなったり、石を据える際に下の石と触っている部分分からなくなったりしたので、様々な方向からの写真やさらに石に近づいての写真があればもっとスムーズに積んでいけたのではないかなと思います。

新しく石を加工して元の石と交換してはめる作業では、まず当たり前ですが圧倒的に経験不足過ぎて何もできなかったのが心残りでした。自分は研修に行くからとノミとコヤスケを買いましたが、ノミの大きさにセットハンマーが合ってなかったりと散々だったので、今度からは皆さんに言われたように 1.5 のセットハンマーを持っていこうと思います。

新しく作った石は、なかなかきれいにはまらずに何回も手直ししてやっとはまりましたが、隣の石を据えるときに変なふうに当たったりしてその都度手直しをしましたが、あれは最初から石の後ろの部分を強く削っておけばよかったのかなと思っていたのですが、聞くのを忘れていたので、次の機会に改めて聞いてみようと思います。また裏込め石の詰め方でも裏込め石は積むと教えていただき前回参加したときに苦手だったのですが、しっかり裏込め石を積むことが出来るようになり良かったです。

自分は造園業なのですが、今回参加した研修を自分の職務に活かすとしたら、いろいろな方向から作業を見て、この作業はこうしたらどうだろうと考えながら作業していけば、研修に参加した意味にもなるし、今後熊本城に少しでも参加できる機会があるときに、研修で学んだことを活かせるのだと思います。

■新規加入会員紹介(令和5年7月19日役員会審査)

会員区分	氏 名	所 属
技能会員	稲田 裕佳	作庭志稲田(株)
〃	岡田雄太郎	(有)川本造園
技術・研究会員	藤木 透	佐用町教育委員会
〃	安田 伸二	(株)増原産業建設
〃	大塚 啓一	(株)フジヤマ
〃	重松 克弥	(株)フジヤマ
一般会員	佐藤 稔	アトリエファーム 合同会社
〃	石井 貴明	庭屋 石井

■文化財石垣保存技術協議会会員数

(令和5年6月30日現在)

技能会員	182名
技術・研究会員	128名
一般会員	53名
賛助会員	19法人
評議員	10名
合 計	392名 (法人含む)

発行年月日 令和5(2023)年11月30日

編集・発行 文化財石垣保存技術協議会

事務局住所 〒670-0012 姫路市本町 68-258

日本城郭研究センター内

TEL 079-289-4877 FAX 079-289-4890